

菊の博学

- ・キク科キク属に含まれる宿根草で、学名をクリサンセマム・モリフォリウム(Chrysan-themum morifolium)といいます。日照時間の長い時期に成長して、日照時間が短く(13 時間以下)なるとつぼみをつけ開花する短日性植物です。
- ・菊の開花時期は一般的に 10 月下旬から 12 月中旬です。旬は 11 月上旬といわれており、秋を代表する花です。

菊の歴史

- ・菊の原産地は中国で 3,000 年以上の歴史があり、日本へは奈良時代中期に遣唐使などによって薬用植物（解熱、頭痛、めまい、長寿など）として入ってきたと言われています。
- ・平安時代には、9 月 9 日の重陽の宴で花を觀賞し、赤白黄の綿を花にかけて菊酒を飲み、その綿で身体をぬぐう「着せ綿の行事」が行われていました。（老いを防ぐ効果があると考えられていました。）
- ・一般庶民に菊栽培が広がったのは、江戸時代中期の 1710 年代（正徳～享保）に花径 18 cm 以上の大菊の新花を競う「菊合わせ」が盛んになった頃からです。入賞すると新花の苗 1 本が 3 両にもなったため一獲千金と名誉をかけて一般愛好家が交配実生に熱中し、次々と優れた品種が誕生しました。また、この時代に地域独特の古典菊も誕生し、江戸の植木屋が菊で富士山や名所の風景、菊人形などを作りはじめ、現在の菊作りの型がほとんど揃ったと言われています。
- ・明治 20 年代には、各地に菊花会ができ、大菊三本仕立て（盆養）が流行し、その華を競い始めました。懸崖や盆栽は大正初めに流行し、以後広く作られるようになりました。
- ・日本で大きく発展した菊は、明治以降、世界各地に運ばれ、品種改良がなされました。オランダではスプレー菊、アメリカでは鉢花用のポットマムが発達しました。

菊の種類

- ・大菊(和菊)：花の直径が 18 cm 以上で、花型によって「厚物」、「管物」、「広物」に分かれます。「厚物」は、更に「厚物」、「厚走り」、「大掴み」に分かれ、「管物」は、管の大きさで「太管」、「間管」、「細管」、「針管」に分かれます。また、「広物」は一重咲きの「一文字」と八重咲きの「美濃菊」があります。
- ・古典菊(和菊)：江戸中期に各地の殿様の保護奨励によって地域独特の発展を遂げた菊の総称で、昔の地名で呼ばれています。その種類には、嵯峨菊、伊勢菊（松坂菊）、肥後菊、江戸菊、美濃菊、奥州菊などがあります。
- ・小菊(和菊)：花の直径が 9 cm 未満で山菊と呼ばれることもありますが、懸崖仕立てや盆栽用に育成された小輪の菊です。花色、花型、生育の特徴など極めて多彩で、種類が豊富です。
- ・洋 菊 類：洋菊とは、欧米に渡った日本の菊がそれぞれの国の好みによって改良されたものの総称であり、クッションマム、ポットマム、スプレー菊などがあります。

菊の仕立て方

- ・大 菊：三本仕立て、一本仕立て、七本仕立て、千輪作り、競技用切花、ダルマ作り、福助作りなど
- ・古 典 菊：ほうき作り、七五三作り、天地人作り、篠作り、肥後菊花壇など
- ・小 菊：懸崖作り、杉作り、造形、ポットマム、クッションマム、盆栽作り、直幹仕立て、双幹仕立て、岩付け・木付け盆栽、盆栽懸崖、柳仕立て、筏吹き・根つながり、寄せ植え、木付けなど
- ・そ の 他：弥彦作り、菊人形、総合花壇など

問合わせ先

岐阜市都市建設部公園整備課

〒500-8701 岐阜市司町 40 番地 1

TEL:(058)214-2184 FAX:(058)262-0512

岐阜公園管理事務所

〒500-8003 岐阜市大宮町 1 丁目 46 番地

TEL:(058)262-3951 FAX:(058)262-3951

第50回 岐阜公園菊人形・菊花展

～戦国武将ゆかりの地 岐阜～

開催期間:令和 3 年 10 月 23 日(土)～11 月 23 日(火・祝)

AM9:00～PM5:00(※開催中無休、無料)

菊の愛好家の方々が永年の経験で培った植付け技術を用いて、丹精込めて育てた個性あふれる「菊の鉢植え作品」や、岐阜市立岐阜小学校や岐南町立西小学校の児童の皆さんが愛情を込めて育てた菊を展示しています。

また、戦国時代の歴史的一幕が、美しい菊の衣装をまとった「菊人形」で再現しており、「桶狭間の合戦前夜」の信長公の能の舞いを、躍動感ある菊人形で仕立てています。

さらに、「特別展示」として、昭和 4 7 年の第 1 回からこれまでの菊花展の歴史を写真で振り返るパネルを展示しています。



会 場：岐阜公園（岐阜市大宮町 1 丁目）

駐 車 場：普通車：堤外駐車場 179 台(310 円/回)：鏡岩緑地 279 台（無料）

バ ス：18 台(一回 1,040 円)…要事前予約

予約先（一財）岐阜市みどりのまち推進財団 TEL(058-262-4787)

ア ク セ ス：J R 岐阜駅または名鉄岐阜駅からバス 15 分

「岐阜公園歴史博物館前」下車徒歩 1 分

※周辺駐車場は混雑が予想されますので、公共交通機関をご利用ください。

※ご来園の際は、手洗い・手指消毒、マスクの着用などの新型コロナウイルス感染

予防対策にご協力いただき、ソーシャルディスタンスを守ってご観覧ください。

菊人形・菊花展案内図



【見どころ1】 菊人形舞台

おけはさま

「桶狭間の合戦前夜」

毎年、戦国時代の歴史的一幕が、美しい菊の衣装をまとった「菊人形」で華麗に再現されており、今年は「桶狭間の合戦前夜」の信長公の能の舞いが躍動感ある菊人形で仕立てられています。

その時代絵巻は見る人を魅了し、歴史好きな方も楽しんでいただける展示となっています。

【見どころ2】 特別展示

「菊花展 50年の歩み」

第50回の開催を記念した「特別展示」は昭和47年の第1回からこれまでの菊人形・菊花展の歴史を写真で振り返るパネルを展示しています。

これまでに出品された「菊の作品」や「菊人形」のほか、岐阜公園にあった「動物園」や「水族館」などの写真もあります。

当時の岐阜公園に思いを馳せ、懐かしんでいただけます。



第1回 菊花展の様子(昭和47年)



昔の遊具(昭和58年)



水族館の様子(平成4年)

山菊総合花壇

木付け、石付け等、5鉢以上の作品を組み合わせ、一つの花壇として構成したもので、他の地方では見られず本菊花展の特色を表すものです。



大菊花壇

大輪菊の3本立ち12鉢もしくは、一本立ち20鉢をもって一つの花壇を構成したものです。



美濃菊

皇室の紋章である一文字菊を祖先に持ち、岐阜が発祥の地です。花卉の表裏の色が異なるものがあり、一種の双重味と鮮やかさを持っています。



大菊小作り

7月頃に菊の芽差しを行い、比較的短期間に育成し花を楽しむもので、福助づくりが一鉢一本立として10鉢、だるまづくりは一鉢三本立として3鉢で一花壇を構成します。

福助づくり



自由花

この部門は、作者が自由な発想に基づいて育成した菊花作品を展示したもので、出展にあたっては大菊、新花、古花等、規定はありません。

千輪仕立て

1株でできるだけ多くの花を咲かせるよう仕立てます。100輪以上咲かせたものを千輪仕立てと規定しているところもあります。



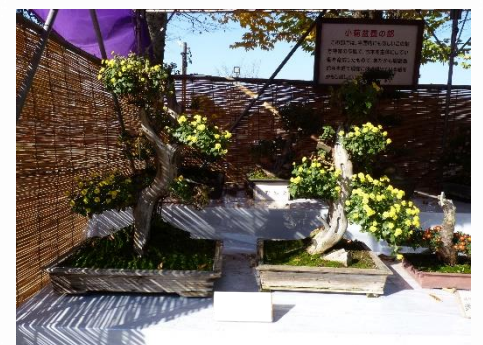
小菊盆栽

小菊の特性を生かし、幹や根を強調し、盆栽風に仕立てており、数年栽培された古木も含まれます。



小菊盆養

全国的にも珍しいこの地方特有の作風で、古木を主体にして小菊を育成しており、樹齢数十年を経て現在に咲き誇っているかのようです。



だるまづくり

